

第8回 第一種健康診断特例区域等の検証に関する検討会
議事概要

1. 審議開始日

令和8年3月27日

2. 議決日

令和8年3月31日

3. 方法

持ち回り審議による。

4. 議題

気象・土壌ワーキンググループの報告について

5. 審議結果

別添報告書のとおり報告され、特段の異存なし。

6. 主な意見

(荒井構成員)

- ・ 今回の報告書案について異存、意見はありません。
- ・ 厚生労働省健康局長の下に第一種健康診断特例区域の設定について検討会が設置されたのが令和2年でした。それ以来、検討会は7回にわたり開催され、この間、各関係分野の専門家の先生方が、今日の科学の到達点といえる最新の知見を踏まえて「気象・土壌WG」の調査、研究を積み重ねてこられました。
- ・ 今回の御報告により、検討会も収束と存じますが、関係の皆様御尽力に深遠の敬意を表する次第です。

(岩崎構成員)

- ・ ワーキンググループが実施した気象シミュレーションでは、現時点で可能な最先端の手法が採用されており、妥当なものと考えます。
- ・ 同時に様々な不確実性により汚染区域の特定は現時点で不可能であることも明らかとなりました。降水域の特定には、①観測に基づく過去の気象状態の推定、②火災発生地域とその時系列の推定、③気象モデルの不完全性、④降水の決定論的予測の不確実性（いわゆるバタフライ効果）などの不確実性があります。また、降水の有無に加え、放射能を含む物質の発生・輸送・沈着に関しても大きな不確実性が存在します。ワーキンググループは、不確実性評価のためアンサンブル計算やモデルの不完全性を考慮したパラメ

タの変動実験を行い、計算条件により結果が有意に変動することを確認しました。

- ・したがって、「かつてない精度でシミュレーション計算を達成することができた」「現時点の科学技術をもってしても（放射性物質を含む）黒い雨が降った範囲を正確に特定するにはいたらなかった」とする結論に同意いたします。また「技術の進展により解釈が明確になることが期待される」という指摘にも同意しますが、過去の気象観測の不足や火災発生の推定には大きな改善が見込めず、土壌は一層変質が進むことも含めて、事実認定には依然として大きな壁が存在することも指摘したほうが良いと感じました。

（濱住構成員）

- ・第一種健康診断特例区域の検証に係る再検討について、最新の科学技術を用いた検討ということであったが、当初からその困難性については指摘されていたところです。
- ・「黒い雨」について、今も裁判が行われている。司法と行政の乖離があり、距離や時間で判断を下すことなく、一刻も早い解決にむけ当事者の声に耳を傾けて頂きたい。

（山澤構成員）

- ・全体として今回の事業結果の要点を適切にまとめられている。
- ・シミュレーションについては 80 年前の局地規模の雨域をある程度再現できている点は過去の同種の研究に比べて格段の進歩であり、モデル及びデータの進歩により今後もある程度進展する可能性はあるが、それでもなお、かなりの不確かさが残り、降下範囲を特定するのはかなり困難であろうと想定される。その点において、本報告書の記述には違和感はない。
- ・土壌分析については、物証としての強みがあるものの、事象後の経過年数に応じて痕跡が曖昧になっている実態が把握されたものとする。その点、今後は目的に沿った試料採取はより困難となるため、今回採取した試料の価値は高いと考える。ただし、現時点ではさらに進んだ分析・解析する見通しを持つことは困難と考えられる。